慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	対人配慮の視点からみた依頼表現の日中比較
Sub Title	
Author	王, 芳(O, Ho)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2012
Jtitle	日本語と日本語教育 No.40 (2012. 3) ,p.157- 157
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20120300-0157

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』40: 157 (2012.3)

〔日本語教育学講座修了論文〕

対人配慮の視点からみた依頼表現の日中比較

王　　芳

相手に何かを依頼するとき、命令的に「〜てください」だけでなく、様々な表現がありうる。遂行を促す「〜をお願いします」、要求する「〜てくれますか」、願望を表す「〜したいです」、情意を表出する「〜とありがたいです」、などの表現がある。話し手と聞き手の人間関係だけでなく、その場の力関係と依頼内容の難易度にも関わる。たとえば、一緒に授業に出ている普段あまり関わりのないクラスメートにペンを借りるとしたら、

「あの、王さん。今日ペンを忘れたので、授業がおわったら、すぐ返すから、貸してくれませんか。どんなペンでもいいです。すみませんね。」

という依頼の仕方も考えられるが、自然談話の中で、依頼をどう表現するか、以上のような方法以外どんな頼み方があるか、また中国語の依頼表現はどうなっているか、日本語と対照しながら、見てみた。

本論の全体的構成として、まず対人配慮に関係するポライトネスと配慮表現について先行文献をまとめた。次は、依頼表現の枠組みについて、依頼表現とは何か、どのような条件で依頼表現が成立するか、依頼表現の談話モデルを提示し、文ごとにコミュニケーション機能を当て、依頼表現の展開を示した。第三部分は本論の中心で、依頼表現の日中日比較である。最後に依頼表現の教育について論じた。

本論の研究対象となっているのは村上春樹『ノルウェイの森』と『ダンス・ダンス・ダンス』、山崎豊子の『白い巨塔』と『続白い巨塔』とそれらの中国語訳の中の談話部分である。研究の着眼点は「依頼」という発話機能をもっている文の動詞部分である。全 287 例があり、依頼表現の 5 分類にしたがって比較分析をした。

比較分析の結果として、以下のようである。

まず、中国語訳の数値からみると、「请(你/您)」が圧倒的多いことがわかった。中国語の依頼表現の代表だと言えるだろう。一方、日本語では〈願望表出〉系依頼表現が最も多かった。

つぎ、〈要求〉系依頼表現の日本語の表現は授受表現が多用されているが、中国訳では授受を訳さなかった。

また、〈情意表出〉系依頼表現は日本語が全 287 例の中わずか 6 例である。中国語ではもっと少なかった。婉曲すぎる表現は日本語も中国語も多用されないことがわかった。

さらに、日本語には丁寧度が違うことで、語の形が違ってくるのに対して、中国語訳では丁寧度が違っても、表現の差はあまり見出すことができなかった。

以上のような分析結果から、日本語教育への提案をした。つまり、日本語の配慮表現を意識させること、依頼表現のバリエーションを学習させること、依頼の場面を設定し、ロールプレイまたは会話練習をさせることである。